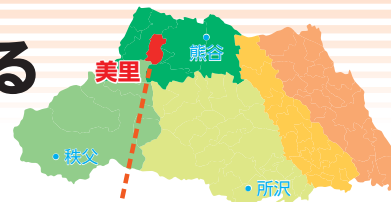


イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

美里町 原田 信次 町長 (55歳)



「美しい夢のある里」を目指し、誇りと愛情に満ちたまちづくりに励む 原田 信次 町長

### 美里誕生60周年。自立した町づくりを

当町の歴史は、1954(昭和29)年の東児玉・松久・大澤村の合併で生まれた美里村にまでさかのぼることができます。今年でちょうど60年。1984(昭和59)年の町制移行からも30年となり、2014年は、まさに記念すべき年を迎えることとなりました。今後、次代を見据えた施策の実現と、自立した持続可能なまちづくりを進めていく覚悟です。そのためにも、直面している課題のひとつひとつをクリアしていかなばなりません。

まず経済振興の面でいえば、当町も近年の経済のグローバル化の中で、税収が落ち込んでいる問題があります。他の自治体と同様に自主財源と雇用確保、そして新たな企業誘致を目的として企業立地促進条例を制定しました。しかし、近年の全国的な乱開発の影響で、今まで利用できた農村工業導入地域や農村活性化土地利用などの農村を維持発展させる施策が事実上活用できず、開発が制限されています。そのため、最近の誘致事例は、山林の開発事例に限られる結果となりました。

また、当町の39%を占める農地は、かつては養蚕業が盛んで、蚕のえさとなる桑園が多く営まれていましたが、こちらも養蚕業の衰

退にともない、放置されて遊休農地となっており、さらなる有効活用が課題とされてきました。

そのほか、少子高齢化、人口減少の問題も深刻です。町内で生まれ育った子どもたちが求職のために、転出していくことは残念でなりません。

### スマート IC で、民間活力を呼び込む

これらの問題に向けた施策のなかでも、特に力を入れているのが関越自動車道寄居 PA (パーキングエリア) へのスマート IC (インターチェンジ) の設置です。よく知られているようにスマート IC は、ETC 搭載車のみが通れる IC であり、設置にかかる費用が少なく済むというメリットがあります。設置予定の寄居 PA は、当町と寄居町の町境にあり、開通すれば、地域住民の交通の利便性の向上が図られることでしょう。これに併せて、すでに周辺に進出している多くの企業の物流の効率化へも貢献が見込まれますし、ホンダ寄居工場に関連した企業の進出も予想されていますので、一層の地域経済の活性化と雇用の強化につながることを期待されます。

2012年4月には、深谷市、寄居町と協力し、高速道路との連結許可を取得しました。人・もの・カネを活かす民間活力を呼び込み、さらなる経済波及効果が期待できるように開通に向けた整備を進めていきます。

次に農業振興に関しては、集落営農や法人化、地産池消や6次産業化を推進していきます。活用が進んでいなかった桑園の対策には、ブルーベリーの植栽を奨励しました。その結果、当町の約140軒の農家が植栽に取り組み、40ヘクタールという日本一の植栽面積を誇るまでになりました。

ブルーベリーの摘み取り時期に当たる6月

初旬から9月中旬にかけては、約30軒あるブルーベリーの農園に大勢の観光客が訪れます。観光や食育の拠点となる産直館を新たに建設することも計画中です。

それ以外の遊休農地に対しては、太陽光発電の利用が検討されています。

これは民間団体からの提案でした。その仕組みは次のようなものです。

用地の上に太陽光パネルを設置し、パネルの下の土地を農地として活用する、そして、その管理を地元の農事組合に担わせる、というものです。

これならば、農家には農地の賃貸料が入りますし、同時に遊休農地の解消も進みます。現在、約9ヘクタールの申し込みがありますので、今後も遊休農地が解消されることを期待しています。

### 自然と共生した人間らしい生活ができる

これから先、都市部では引き続き高齢化が進むと思われますが、反対に郊外の高齢化は、落ち着いていくでしょう。あらゆる面で、都市部と郊外は逆転するのではないのでしょうか。郊外ならば、自然と共生した人間らしい生活ができると私は信じています。

私の夢は、当町を町名に負けない、「美しい夢のある里」にすることです。景観保持を進めて、町全体を公園化していきたいと考えています。

当町を「町民自らが町に誇りと愛情を持ち、子育てしやすい町」、「自分の農園を持ち、取れたての野菜を食べることができる町」、「都市部へ通勤可能な郊外の良さをさらに磨いた

### 美里町の概要

人 口 (平成22年国勢調査)	11,605人
世 帯 数 (同上)	3,550世帯
平均年齢 (同上)	46.9歳
生産年齢人口比率 (同上)	66.5%
面 積 (同上)	33.48平方キロメートル
名目市内総生産 (平成22年度市町村経済計算)	1,757億7,000万円
事業所数 (平成22年工業統計)	52事業所
製造品出荷額等 (同上)	2,485億5,222万円
事業所数 (平成24年経済センサス)	452事業所
年間商品販売額 (平成19年商業統計)	64億2,338万円



日本一の植栽面積を誇るブルーベリー農園。  
まちおこしに一役買っている

町」へ変えていきたいのです。

そのためにも、今後、若い世代を積極的に呼び込んでいきたいと思っています。

まず宅地化できる土地の情報を公開していると考えています。子育て世代定住促進助成制度の創設を検討していますし、現在、すでに保育所・学童保育所の待機児童はいません。医療費も中学校までは無料です。子どもたちが通うことになる学校についても、耐震化とリニューアルを終え、トイレの洋式化、エアコンの設置がともに完了しています。

通勤にもメリットがあります。あまり知られていませんが、新幹線を使えば、当町からでも（本庄早稻田駅利用）東京駅まで約50分で着きます。ゆったり座って通勤できることを町としてアピールできるのではないかと思います。

また若い世代だけではなく、高齢世代向けの施策として、交通弱者対策を作りました。病院通いや買い物に行くのに苦労している人に対し、民間タクシーの利用を一定額まで補助するという仕組みです。

将来、こうした制度が根付いた当町で育った子どもたちが、やがて大人になり、故郷に戻って暮らしたい、定期的には帰省したいと思えるような町にし、町外の人たちからも選ばれる町にすることが私の理想です。

これからも意外なほど便利な郊外の良さを積極的に情報発信していきたいと思っています。

今回は、かつて当地の衆議院議員秘書を務め、町の発展のために尽力された八潮市の大山忍市長にバトンタッチします。